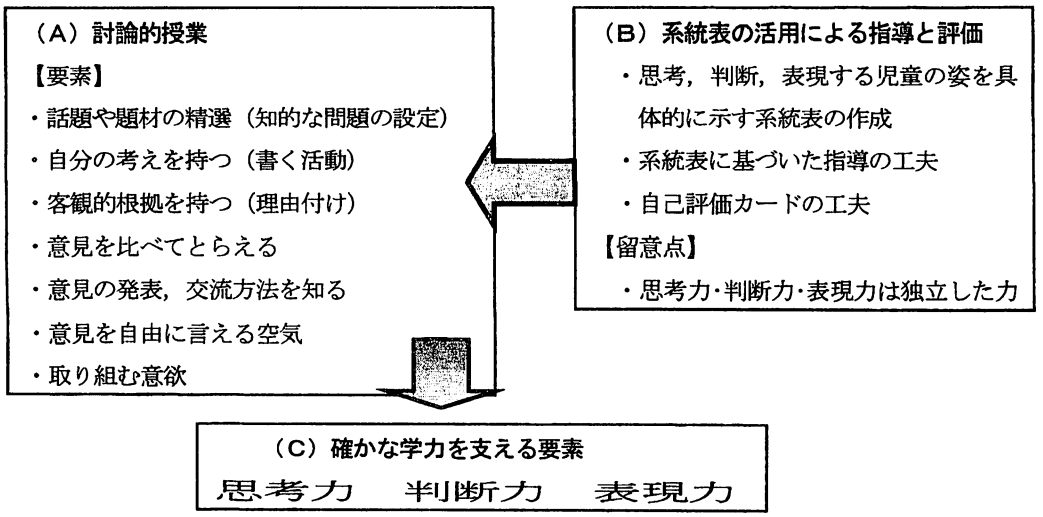
日下部小学校

「確かな学力を保障する指導の研究」
ー討論的授業を通し，思考力･判断力･表現力を高める工夫ー

Ⅰ　研究の内容

1．研究の仮説

討論的授業（A）において，系統表の活用による指導と評価の工夫（B）をすることにより，確かな学力を支える思考力･判断力･表現力（C）を育むことができるであろう。



2．研究の具体的内容

①当該学年における「確かな学力」の系統表の作成
②「確かな学力」を見える形にした討論的授業実践と指導法の工夫
③「語彙力」「漢字力」「作文力」の授業公開（一人一実践）
④特別支援教育についての学習

3．研究の方法

①部会は，「低学年部会」「中学年部会」「高学年部会」の３部会
②低，中，高別にそれぞれ１本ずつ全体研究授業と部会内研究授業を設定する。
③研究授業をする教員以外全員，一人一実践として授業公開を行う。
④講師を招き，特別支援教育についての学習会を行う。
⑤検証資料を明確にする（意識調査，児童の感想，学習カード等）

Ⅱ　成果と課題

・　討論的授業を共通の切り口として研究副主題に入れ焦点化したことは，昨年度から

の継続・発展から考えて，適当であった。

- 「確かな学力」に関する児童への事前事後アンケートを実施し，高まりが見られた項目や課題となる項目が明らかとなり，今後の指導の目標が確認できた。研究仮説は，ほぼ妥当であったと考えられる。
- 討論の要素である，考える・書く・話す・発表する・話し合うという活動を意図的に入れた授業実践が行われ，子どもたちが，ステップを踏んだ指導の工夫により，徐々に思考・判断・表現力を伸ばしていったことが確認できた。
- 討論の場面を取り入れ，系統表に基づいた実践をする上で，実践する教科・領域・道徳の学習指導要領にある目標，評価規準等，その教科が持つ本質や特性との整合性を常に意識していくことが大切であることが確認できた。特に学級活動でのディベートを取り入れた話し合いは，その結果が即，実行できるもの，次の活動につながるものでなければならないという点で課題が残った。
- 今年度は本研究主題の３年目の最終年度である。各部会の系統表も完成し，その密接な関連性についても明らかになった。今後は系統表を日々の実践の中に取り入れ，「確かな学力」を見えるものとして有効に活用するとともに，討論的な授業を意図的に仕組み，授業の活性化を図る努力が必要であろう。

Ⅲ　成果物

１．研究授業指導案（ワークシート，系統表も含む）

○低学年部会（判断力）

【全体】　２年学級活動「どっちがいいか－雪合戦と雪だるま－」野沢浩一教諭

【部会内】１年学級活動「自分で決めよう―給食と弁当―　」水上久美子教諭

○中学年部会（表現力）

【全体】　３年国語「ちいちゃんのかげおくり」山縣重人教諭

【部会内】４年学級活動「討論をしよう―鉛筆かシャーペンか―扇風機かクーラーか」雨宮義仁教諭

○高学年部会（思考力）

【全体】　５年国語「わらぐつの中の神様」　古屋岳治教諭

【部会内】５年学級活動「相手も自分も大切にした言葉で伝えよう」武井由美教諭

２．授業公開指導案（語彙力に関する指導の授業公開）

１年国語「はとへを使って書こう」小野眞理子教諭

２年国語「アニマシオン（読書指導）」保坂千恵子教諭

２年国語「はんたいのいみのことば，にたいみのことば」内田絵里奈教諭

３年国語「おもしろいもの，見つけた」小川真知子教諭

３年国語「こそあど言葉」小川壮太教諭

４年国語「言葉遊びの世界」海野朱美教諭

６年国語「日本語の言葉」小林光三教諭

６年国語「わたしたちの言葉」丸山英子教諭

けやき学級「発表会をしよう」矢崎三枝子，石黒礼美教諭